

自転車利用環境の整理

1. 上位関連計画の整理

桜川市自転車活用推進計画（以下、本計画とする）の上位関連計画は以下のとおりです。下記に示す上位関連計画において、本計画の前提条件や関連事項・事業として踏まえるべき内容を整理します。

上位関連計画の一覧

No	資料等の名称	発行元	策定年等
1	桜川市第2次総合計画	桜川市	平成29年3月策定
2	第2期桜川市まちひとしごと総合戦略	〃	令和3年1月策定
3	桜川市田園都市づくりマスタープラン	〃	平成31年2月策定
4	桜川市景観まちづくりマスタープラン	〃	平成22年10月策定
5	第2次桜川市立小中学校適正配置基本計画	〃	令和1年5月策定
6	桜川筑西IC周辺都市整備構想	〃	平成21年3月策定
7	桜川市地域防災計画	〃	令和2年3月策定
8	第2次自転車活用推進計画	国	令和3年5月策定
9	いばらき自転車活用推進計画	茨城県	平成31年3月策定

(1) 桜川市第2次総合計画（平成29年3月策定）

本市では、平成29年度から新たなまちづくりの指針となる「桜川市第2次総合計画」を策定しています。

● まちの将来像

『ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち

桜川』

● 土地利用基本構想

- ・先人たちから受け継いだ“まち”とそれを包む豊かな自然とが織りなす原風景が、かけがえのない市民共有の財産であることを自覚し、これを守り、はぐくみ、その価値を一層高め、次世代へと住み継いでいくことを目指します。
- ・土地利用にあたり、公共の福祉を優先させ、土地利用のあり方を「量の拡大」から「質の向上」へと転換します。

桜川市土地利用基本構想図
(桜川市第2次総合計画)



● 関連する施策

関連する施策

No	施策名	内容等
1 - 2	健康づくりの推進	自ら健康づくりに取り組めるよう、健康意識の啓発や環境整備が求められる。
2 - 5	文化財の保存活用	国指定名勝「桜川と国指定天然記念物「桜川のサクラ」重要伝統的建造物群保存地区 国史跡真壁城跡では、安土桃山時代の庭園復元を計画している。整備活用により文化・教育・観光の資源となる見込み
4 - 3	観光の振興	筑波山地域ジオパークやつくば霞ヶ浦りんりんロードを活用し、新たな観光客の誘致を進めることが必要
5 - 3	道路網の整備	道路の安全確保のため、道路の陥没や亀裂は迅速な補修を行う必要がある。 歩行者・自転車・自動車が快適に通行できるよう、生活道路の整備を進める。
5 - 4	公共交通の充実	自家用車による移動から公共交通を利用した移動への転換に向けた啓発活動を行い、公共交通の利用促進を図る必要がある。 ・市内小中学校の統合に伴い児童・生徒に対して、コミュニティバスなどの通学支援体制を整備する必要がある。

No	施策名	内容等
プロジェクト	ヤマザクラのまちをつくります <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマザクラを活かした観光を推進します ・ヤマザクラについて学び・育みます ・ヤマザクラによる美しい景観を形成します ずっと住みたいまちをつくります <ul style="list-style-type: none"> ・快適に利用できる公共交通を構築します 	

(2) 第2期桜川市まちひとしごと総合戦略（令和3年1月策定）

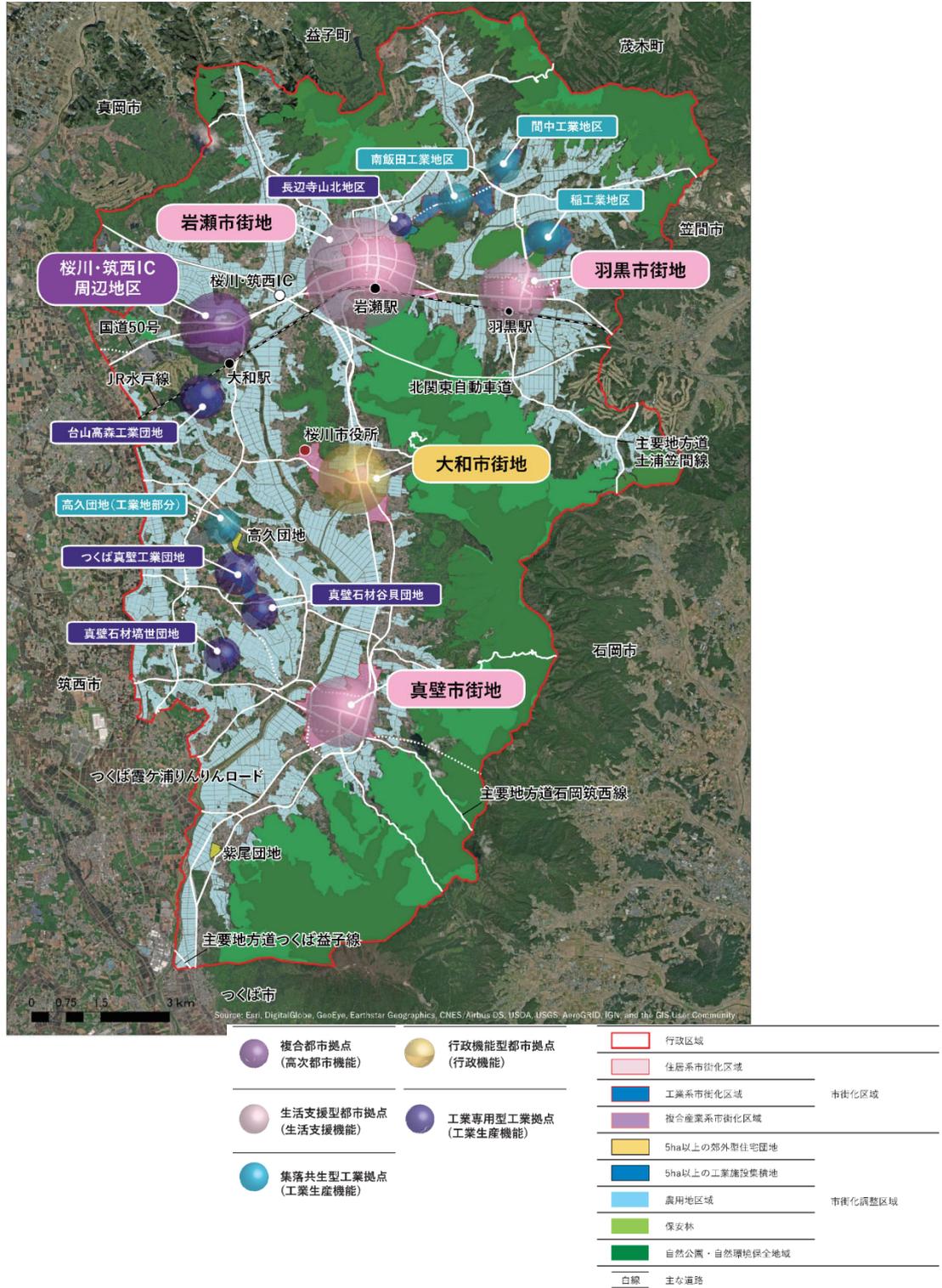
基本目標 4「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」において、「自転車を活用したまちづくり」を施策として掲げており、“サイクリング利用促進事業”や“岩瀬駅周辺整備事業”を推進することとなっています。

関連する施策

4-2 自転車を活用したまちづくり		
421	サイクリング利用促進事業	つくば霞ヶ浦りんりんロードを活用し、自転車を楽しむ取組を推進する。 交通安全教室やマナーアップ教室など、自転車を安全に乗るための取組を推進する。 レンタサイクルの充実やサイン標識の設置等、快適な走行環境を整備する。等
422	岩瀬駅周辺整備事業	岩瀬駅につくば霞ヶ浦りんりんロードの休憩施設を整備する。 休憩施設とつくば霞ヶ浦りんりんロード岩瀬休憩所をつなぐ狭隘部の道路拡幅整備を行う。

(3) 桜川市田園都市づくりマスタープラン（平成31年3月策定）

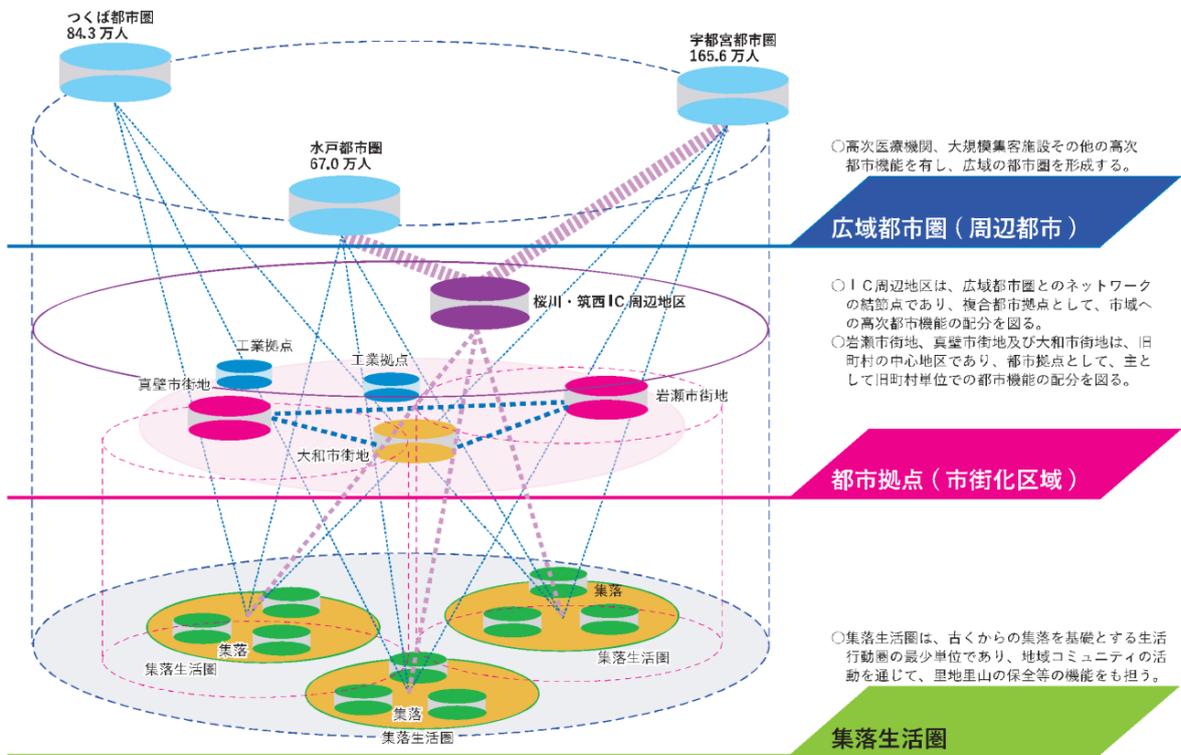
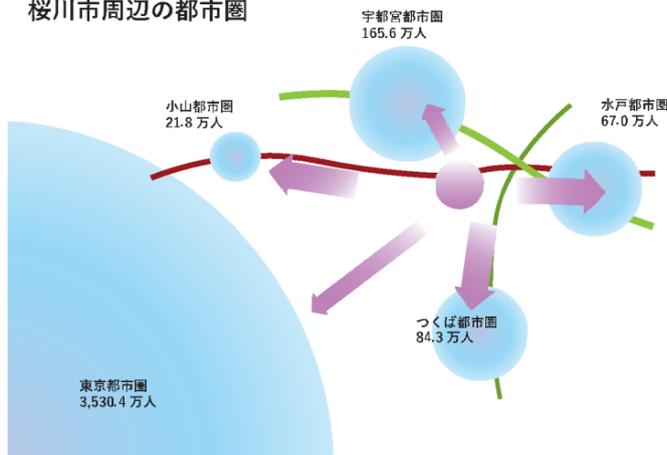
集約連携型コンパクトシティとして、集落部を切り捨てるものではなく、むしろ集落の持続可能性を高める為の合理的な都市構造モデルを示しています。市街地と集落とが共生する田園都市としての桜川市の持続可能性を高めることとしています。



目指すべき将来都市構造《集約連携型コンパクトシティ》のビジョン
(桜川市田園都市づくりマスタープラン)

市の目指す集約連携型コンパクトシティの形成を図るため、地理的に近い周辺主要都市圏（つくば都市圏・水戸都市圏・宇都宮都市圏）と連携しつつ、高次都市機能の誘導を図る拠点を整備するとともに、地域の特長を活かした魅力ある都市づくりを進めることとしています。

桜川市周辺の都市圏



桜川市周辺の都市圏
(桜川市田園都市づくりマスタープラン)

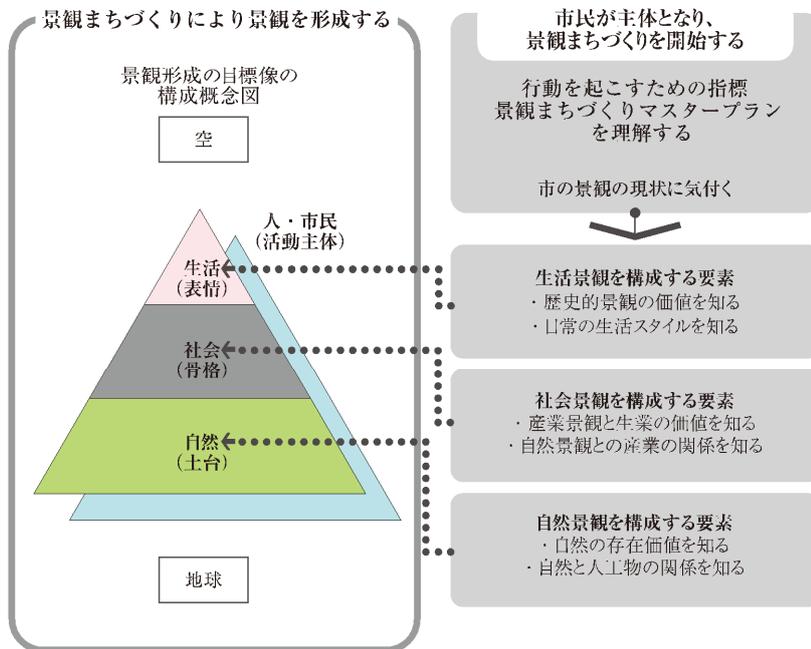
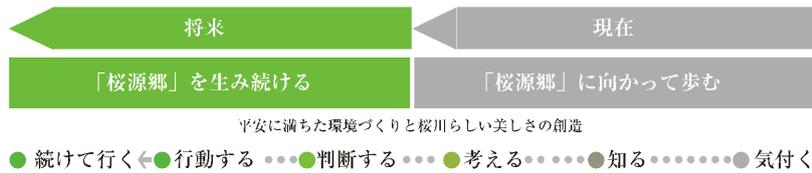
(4) 桜川市景観まちづくりマスタープラン（平成22年10月策定）

本市の持つ景観的な資源と現況の把握し、桜川市景観まちづくり条例を踏まえた、景観まちづくりの基本的な考え方や方向性を示しています。基本となる景観の目標像として、「桜源郷～平安に満ちた環境づくりと桜川らしい美しさの創造～」を掲げています。桜源郷とは、「美しい自然とさとやまちが織りなす風景」と「人の営み」が重なり合う姿を指しています。

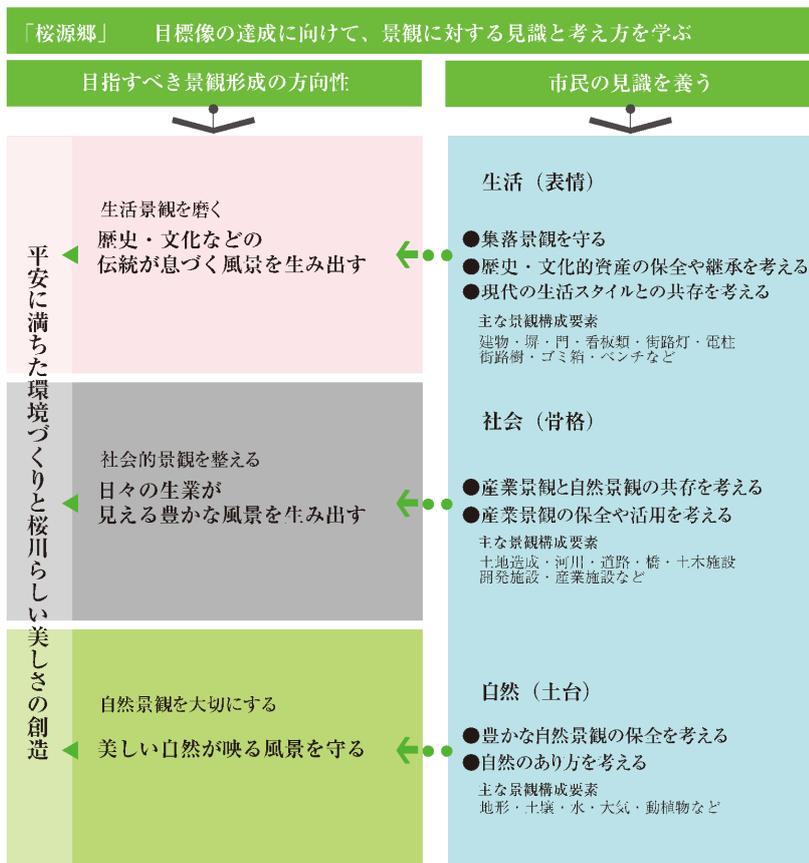
景観まちづくりによる景観形成の概念図において、下から自然・社会・生活という順番で組みあがり、それぞれの構成要素において、景観形成の方向性や市民に必要な見識等の考え方を示しています。景観形成の方向性は、生活景観では「歴史・文化などの伝統が息づく風景を生み出す」、社会的景観では「日々の生業が見える豊かな風景を生み出す」、自然景観では「美しい自然が映る風景を守る」としています。



基本となる景観の目標像
(桜川市景観まちづくりマスタープラン)



計画の構図



景観形成の考え方
(桜川市景観まちづくりマスタープラン)

(5) 第2次桜川市立小中学校適正配置基本計画（令和1年5月策定）

少子化が進む中、児童生徒の人間関係の固定化や多様な価値観とのふれあい減少、学級数の減少に伴う教育上または学校運営上の様々な課題があります。教育環境を整えるため、小中学校の適正配置に向けた方策が示され、学校の統合が進められている状況です。

また、統合により通学区域が広域化するため、スクールバス等での通学支援のほか、小学校高学年の自転車通学が検討されています。

●小学校

岩瀬小学校を除いたすべての小学校が、現在においても将来的にも適正規模である12学級（1学年2学級）を下回るものと推測される。そこで、適正規模を確保するため、2028年度までに現在の9校から3校への統合を目指す。

●中学校

中学校においては、現在4校とも適正規模を満たしているが、将来的には適正規模である6学級（1学年2学級）を満たせない可能性が高い。そこで、適正規模を確保するため、2028年度までに現在の4校から2校への統合を目指す。

(6) 桜川筑西 IC 周辺都市整備構想（平成21年3月策定）

北関東自動車道の整備が進み、桜川筑西 IC が開設され、本市への交通アクセスや交流が可能な圏域が拡大することに対応し、本市にヒトやモノを呼び込む施策と、呼び込んだヒトやモノを地域に循環させ、地域の活性化を図る施策を展開するための方向性が示されています。

①既存資源や産業の活用による交流人口の誘導

◆交流人口を呼び込む農業の活用

◆特産品開発等による地場産品の活用・振興策の検討

◆既存の観光資源やイベントの整備・充実

・桜川のサクラ・真壁の町並みなどの既存観光資源の充実

・観光案内板・サインの整備

・磯部桜まつり・大和石まつり・真壁のひなまつり等の祭事・イベントの充実

・既存観光資源や観光イベントのPR・情報発信の検討・充実

・市内資源のネットワーク化

◆自転車による観光の検討

・つくばりんりんロードや真壁の町並みをはじめとして、市内を散策するためのレンタルサイクルの導入・実施の検討

・つくばりんりんロード周辺情報を発信する案内板の設置検討

・つくばりんりんロードと連携した市内サイクリングロードの整備検討

②新たな交流機能の導入検討

◆地域の魅力を伝える地域情報発信や交流等の新たな機能・施設の導入検討

③広域との連携の検討

◆周辺観光地や広域交通基盤との産業や観光面における連携の検討

・笠間・益子・つくばなど、周辺観光地との連携の検討(広域周遊ルートの構築等)

・広域交通ネットワークやIC活用まちづくり施策による定住人口の拡大の検討

(7) 桜川市地域防災計画（令和2年3月策定）

地震など災害時における通信が困難な場合は、自転車等を使用して被害状況を把握し、避難所と災害本部との連携を図ることとなっています。

(8) 第2次自転車活用推進計画（令和3年5月策定 国）

環境負荷の低減や災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等などの課題に対応するため、自転車の活用を推進しています。

2017年5月に自転車活用推進法が施行後、同法に基づく自転車活用推進計画が2018年6月に閣議決定され、当初の計画期間が2020年度で終了しました。国は、第2次自転車活用推進計画を2021年5月に閣議決定しています。

第2次自転車活用推進計画では、前計画から下記の実施を更に強化することとしています。

- コロナ禍における通勤・配達目的での自転車利用ニーズの高まり
- 情報通信技術の飛躍的発展
- 高齢化社会の進展等の昨今の社会情勢の変化

計画の構成は、4つの目標は前計画を踏襲しつつ、新たな施策として、「多様な自転車の開発・普及」や「損害賠償責任保険等への加入促進」を追加しています。

- 目標1 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
- 目標2 サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
- 目標3 サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
- 目標4 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

(9) いばらき自転車活用推進計画（平成 31 年 3 月策定 茨城県）

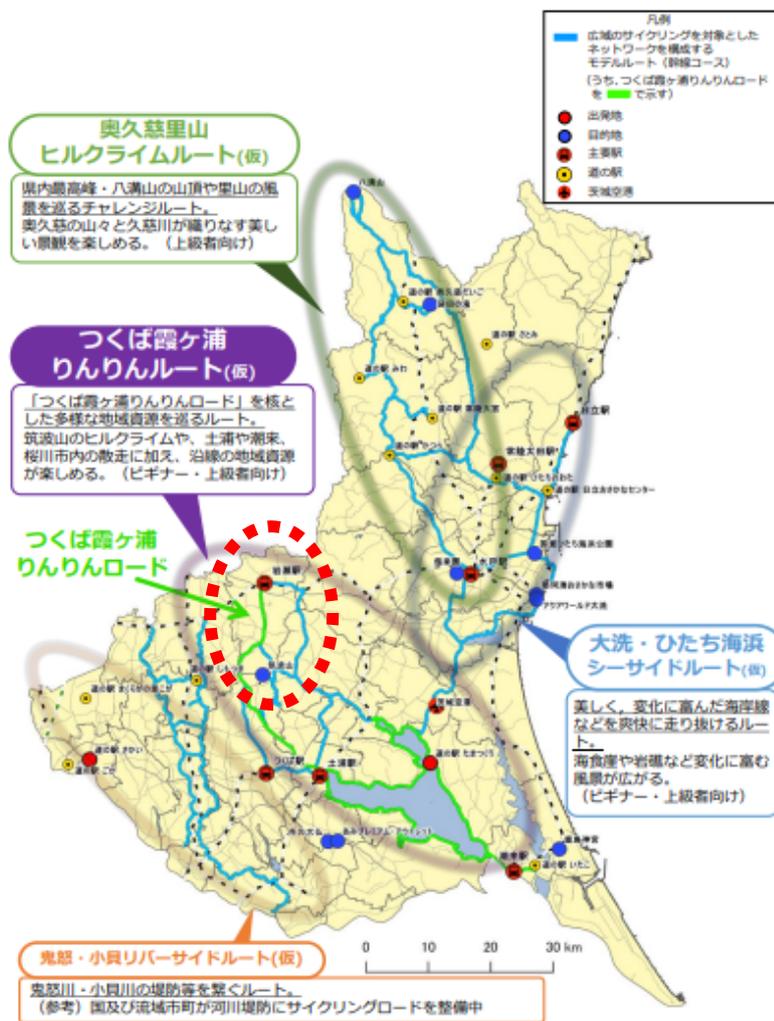
県は、自転車活用による安全安心な都市環境や県民の健康増進、観光地域づくりを課題としています。

目指すべき将来の姿として「誰もが安全・快適に自転車を活用することができる地域社会の実現」を掲げ、県だけではなく、市町村や民間企業等、様々な主体が一体となって、それぞれが適切な役割分担の下、本県の自転車活用を図ることとしています。

県は、自転車の活用推進に関する以下の4つの目標を掲げています。

- 目標 1 サイクルツーリズムの推進による地域の活性化
- 目標 2 自転車交通の役割拡大に向けた自転車通行空間の整備
- 目標 3 自転車事故のない安全・安心な社会の実現
- 目標 4 自転車を活用した県民の健康増進

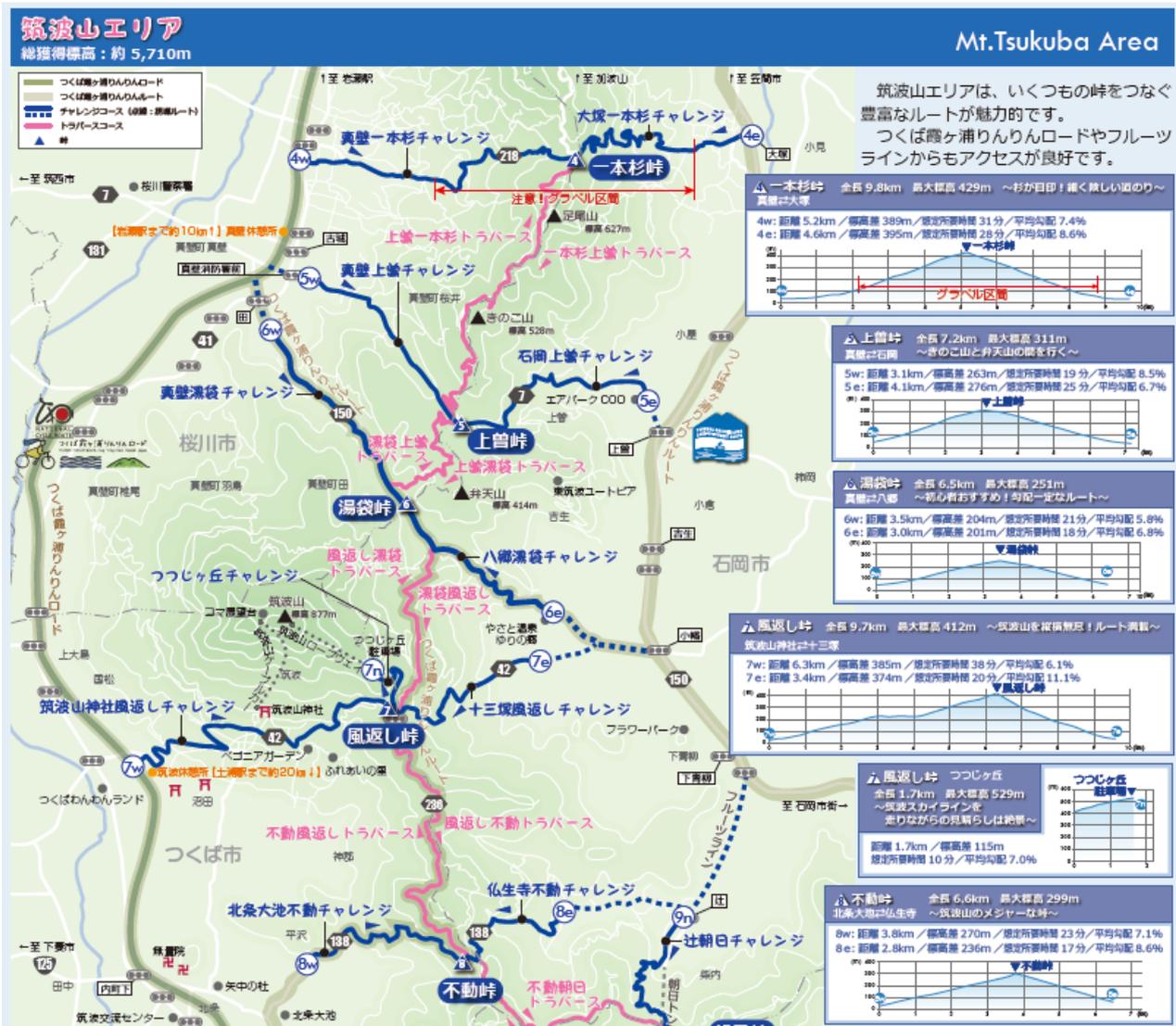
自転車ネットワークとして、本市内では岩瀬駅を起点とした国道 50 号線沿道等が指定されており、矢羽根や道路標識の設置が進んでいます。



広域のサイクリングを対象とした自転車ネットワーク
（いばらき自転車活用推進計画（茨城県））

また、筑波山の峠道は自転車でヒルクライムが楽しめる人気スポットとなっていることから、県では、筑波山周辺の峠等において、チャレンジコースを設定し、パンフレット等で紹介するとともに、起終点案内やカーブ案内などの標識設置のほか、路面の修繕などを進め、サイクリング環境の向上に努めています。

本市内では、県の自転車ネットワークとなっている県道150号が真壁湯袋チャレンジと示されているほか、県道7号が真壁上曾チャレンジ、検討218号が真壁一本杉チャレンジとして峠道パンフレットに掲載されています。



筑波山エリアのチャレンジコース
(峠道パンフレット (茨城県))

2. 本市を取り巻く環境

(1) 本市の位置・地勢

本市は、茨城県西地域に位置し、東京から約70~80km、水戸から約34km、宇都宮から約31kmの距離にあります。

市北部の高峯・富谷山、市東部の雨引山・加波山・足尾山から市南部の筑波山に連なる山々に囲まれています。また、市中央部には南北に桜川が流れ、その沿岸を中心に水田、畑等の農地が広がり、幹線道路沿道に市街地や集落が形成されています。



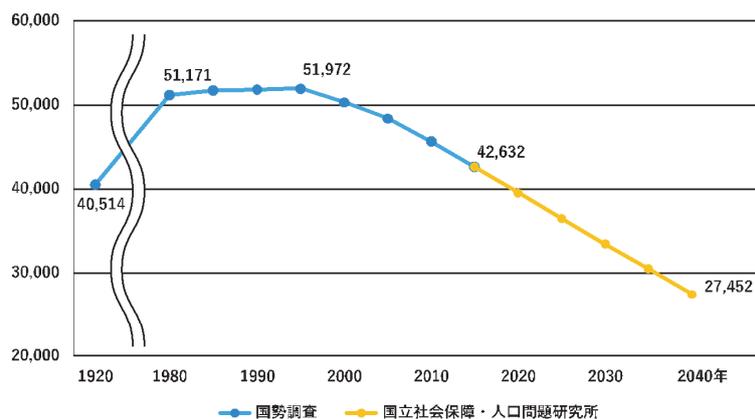
桜川市の地勢

(桜川市田園都市づくりマスタープラン)

(2) 人口・世帯数等

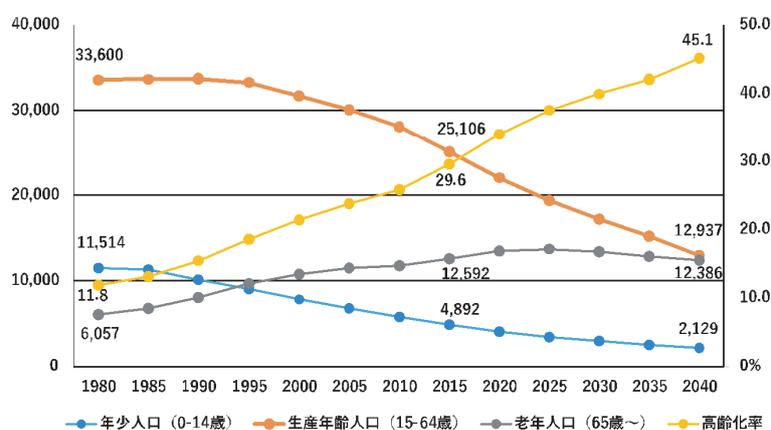
令和2年に行われた国勢調査によると、本市の総人口は39,122人です。人口は、1995(平成7)年以降は減少傾向にあり、年少人口は1995(平成7)年には老年人口を下回りました。

人口の推移と将来推計



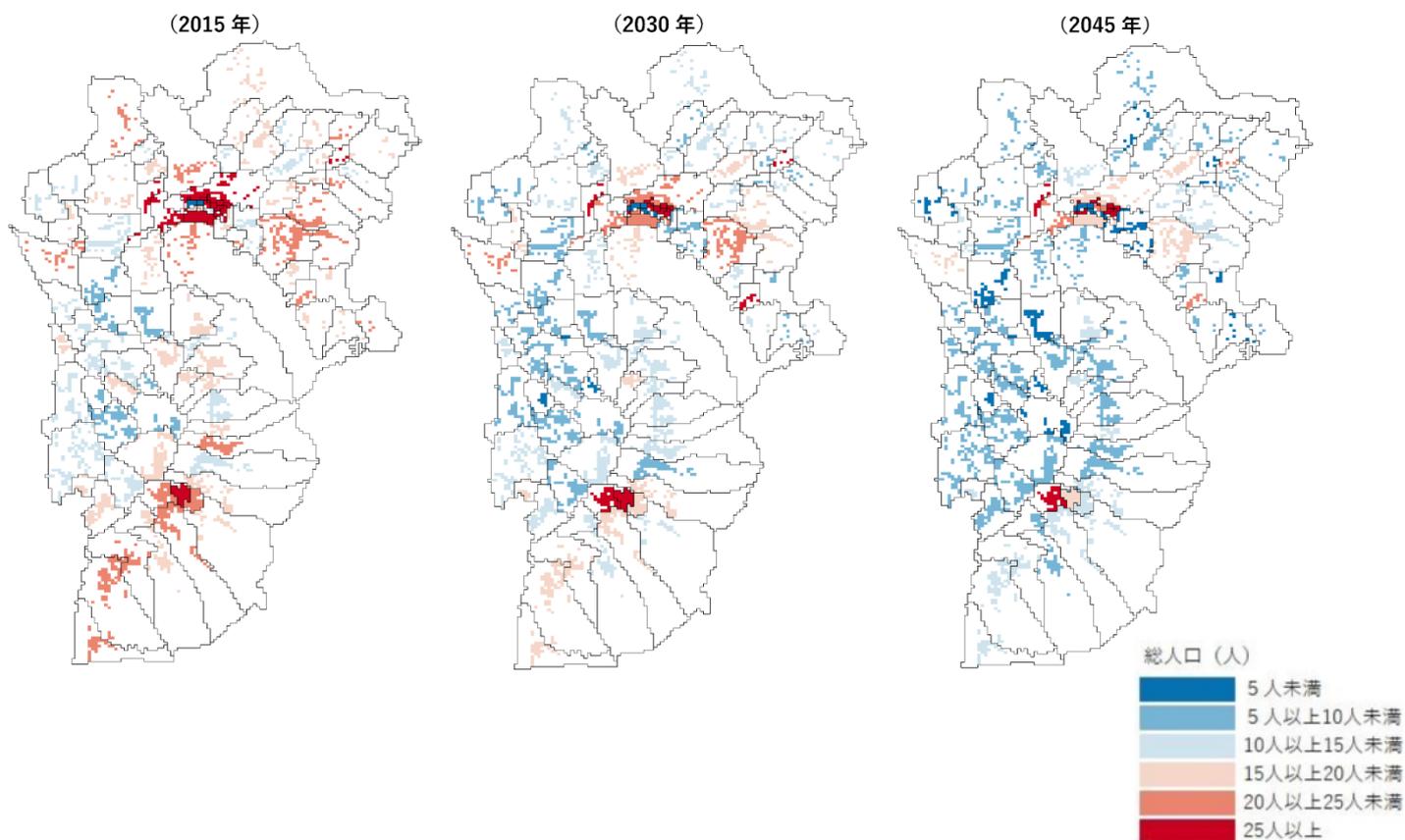
出典：桜川市第2次総合計画2017年(平成29年)3月

年齢3区分別人口及び高齢化率の推移と将来推計



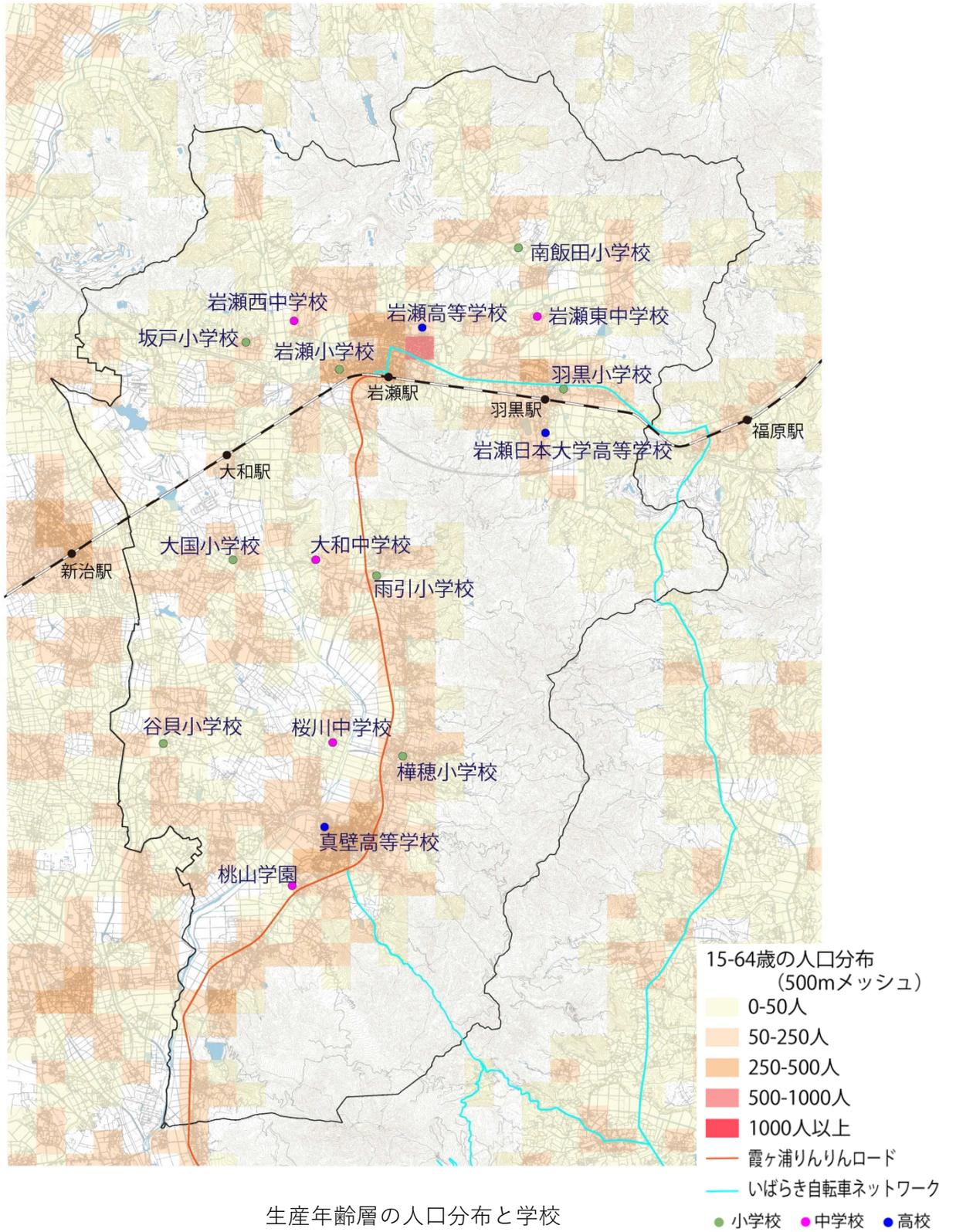
出典：桜川市第2次総合計画2017年(平成29年)3月

桜川市人口ビジョンにおいて、「小地域(町丁・字)を単位とした将来人口・世帯予測ツール」を使用し、100mの細分メッシュ単位の将来人口データが示されています。市内人口は、2045年には岩瀬市街地と真壁市街地のみ高い人口密度を保つと予測されています。



100mの細分メッシュ単位の将来人口予測データ
(国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版)」を使用し
作成)

平成 27 年国勢調査による生産年齢層の人口は、岩瀬駅周辺や真壁市街地に分布が多くなっています。



生産年齢層の人口分布と学校
(H27 国勢調査・国土数値情報)

(3) 生活行動

令和2年国勢調査より、通勤・通学における近隣市町への移動をみると、通勤・通学ともに市内が一番多くなっています。流出数と流入数を比較すると、流出数が流入数を上回っています。

通勤・通学ともに、筑西市への移動が最も多くなっています。

<通勤・通学の動向>

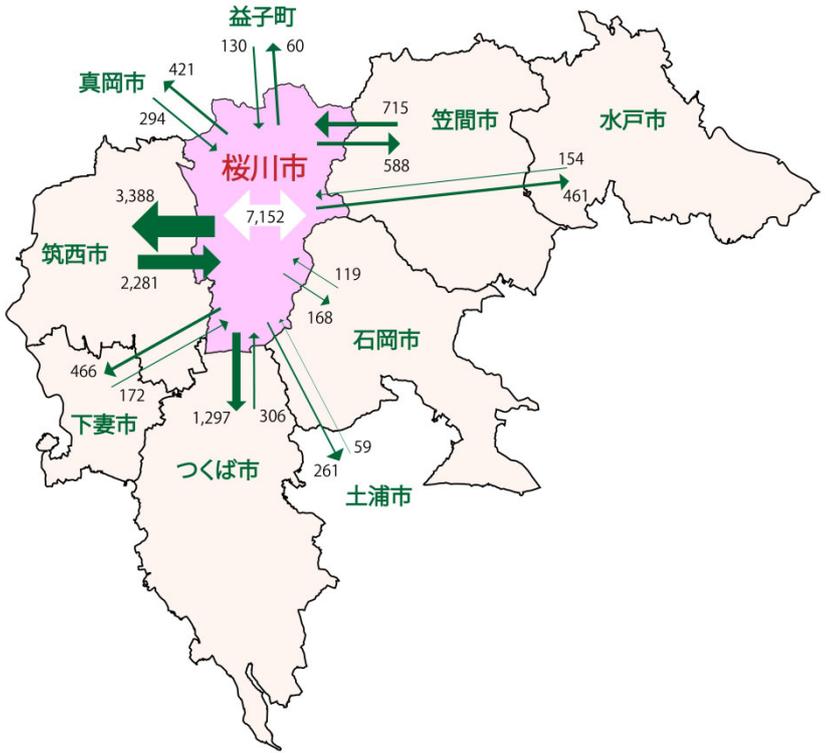
流入

(単位：人)

	全体	通勤	通学
茨城県	12,397	11,349	1,048
桜川市	7,622	7,152	470
水戸市	174	154	20
土浦市	66	59	7
石岡市	149	119	30
結城市	206	126	80
下妻市	212	172	40
笠間市	765	715	50
つくば市	317	306	11
筑西市	2,551	2,281	270
その他	335	265	70
栃木県	738	612	126
真岡市	383	294	89
益子町	148	130	18
その他	207	188	19

通勤

(単位：人)



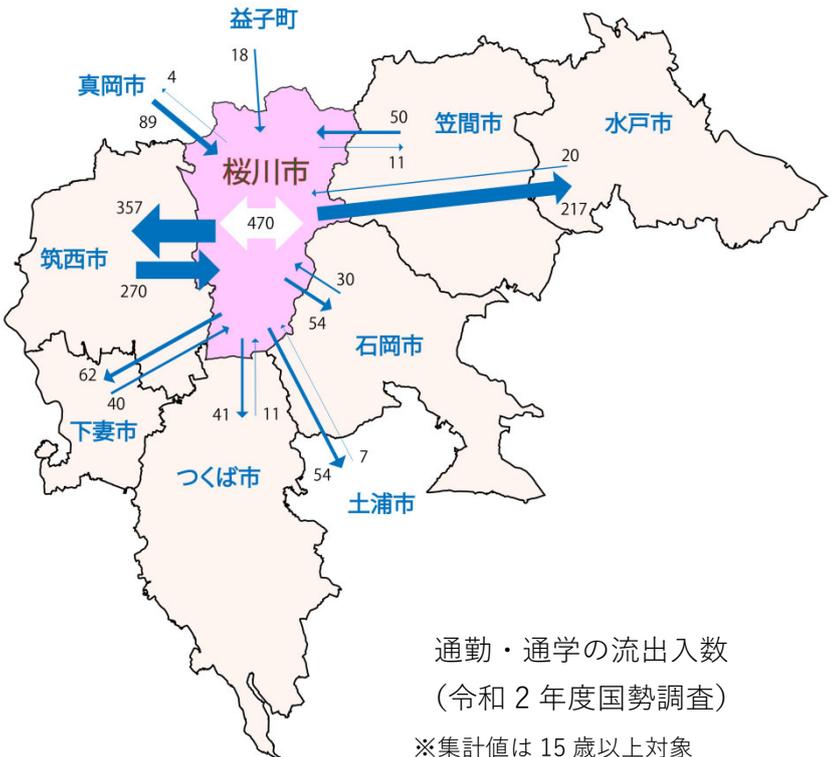
流出

(単位：人)

	全体	通勤	通学
茨城県	15,896	14,572	1,324
桜川市	7,622	7,152	470
水戸市	678	461	217
土浦市	315	261	54
石岡市	222	168	54
結城市	267	227	40
下妻市	528	466	62
笠間市	599	588	11
つくば市	1,338	1,297	41
筑西市	3,745	3,388	357
その他	582	564	18
栃木県	1,047	965	82
真岡市	425	421	4
益子町	60	60	0
その他	562	484	78

通学

(単位：人)



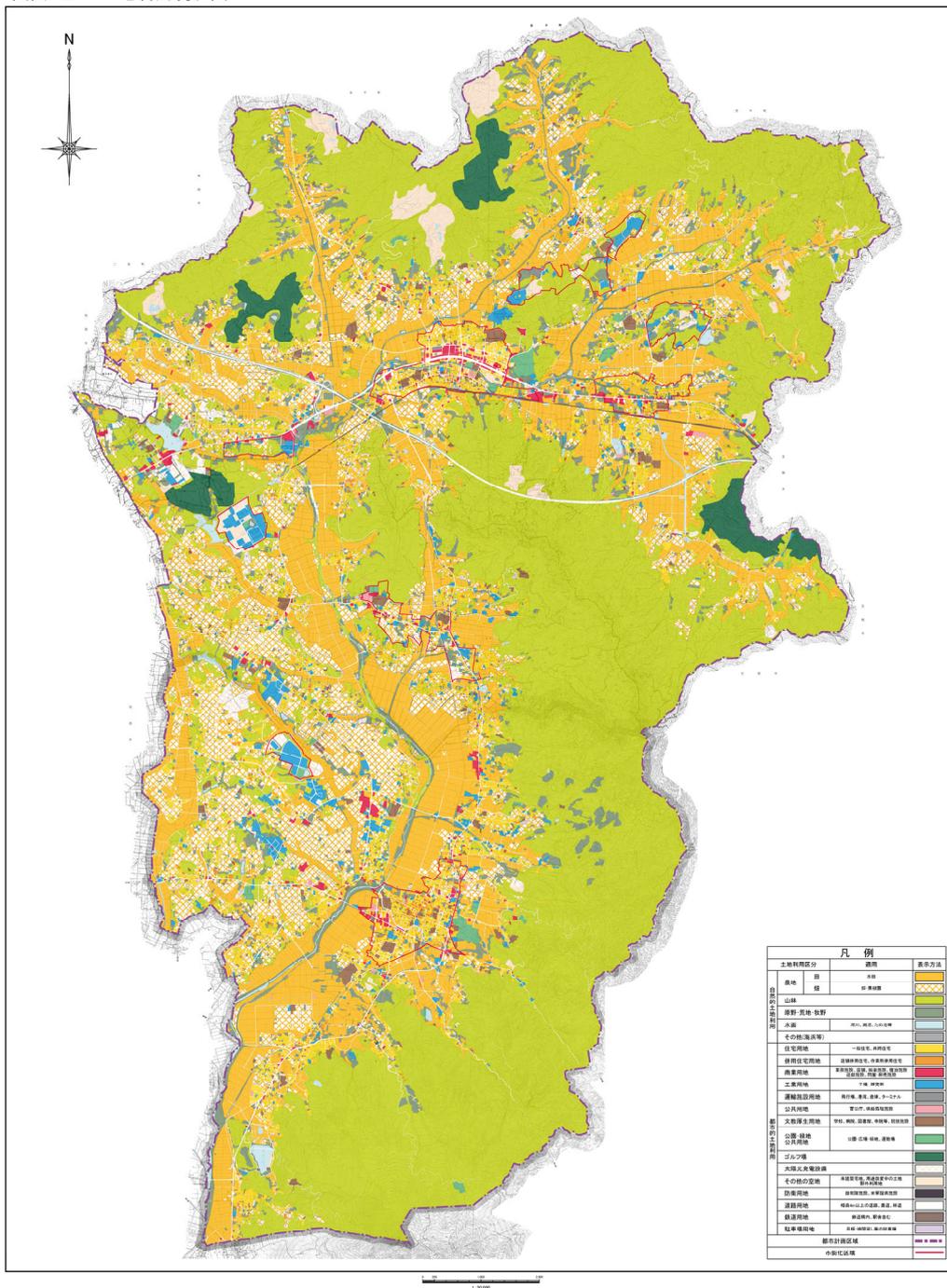
通勤・通学の流出入数
(令和2年度国勢調査)

※集計値は15歳以上対象

(4) 土地利用

平成 29 年度都市計画基礎調査によると、市内土地利用の割合は、山林が 44.3%、農地(田)が 18.1%、農地(畑) 12.3%、住宅用地が 6.4%、工業用地が 1.5%、商業用地が 0.7%となっています。

図面4-2-1 土地利用現況図



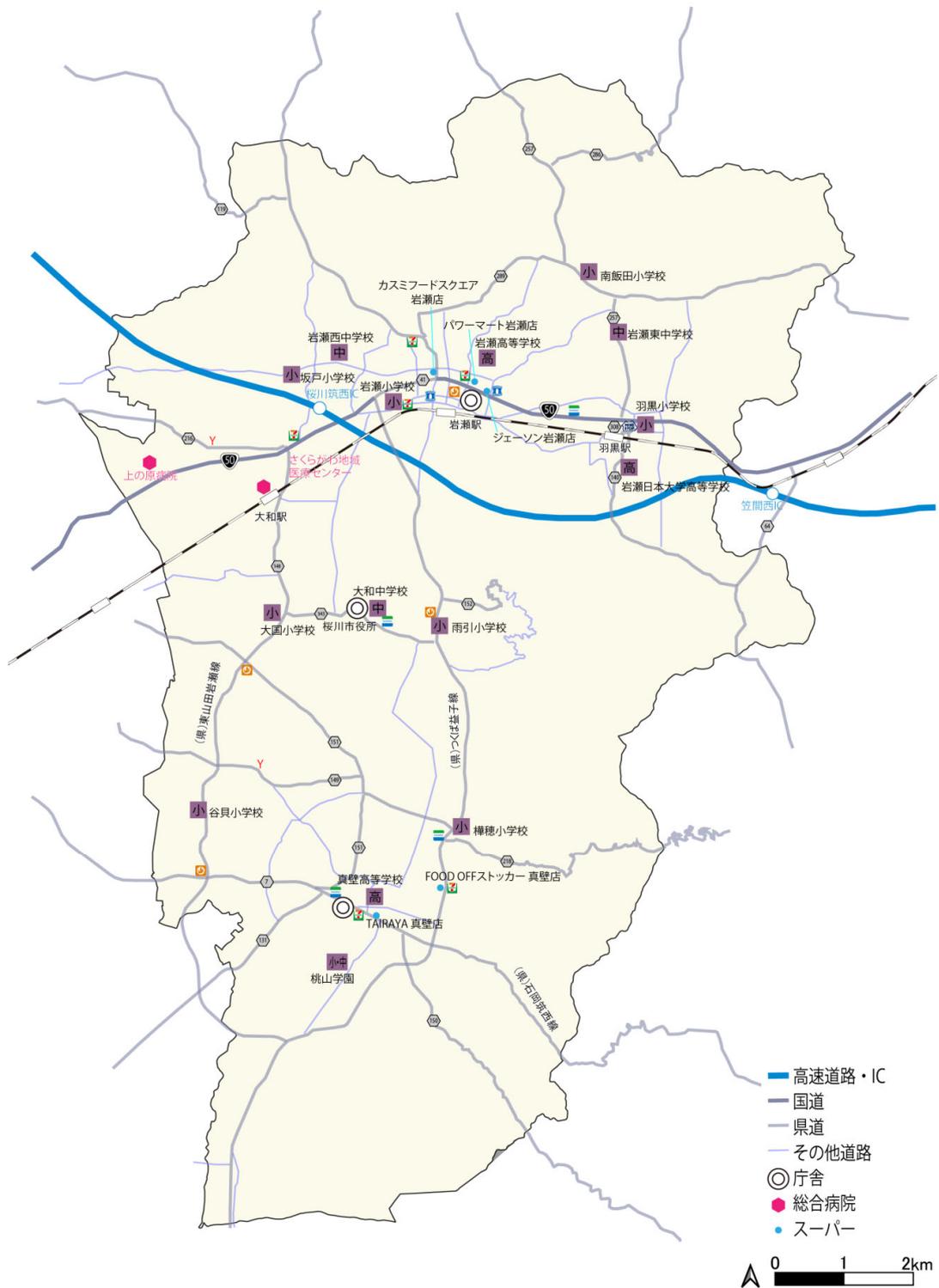
1

0

土地利用現況
(平成 29 年都市計画基礎調査)

(5) 道路・交通

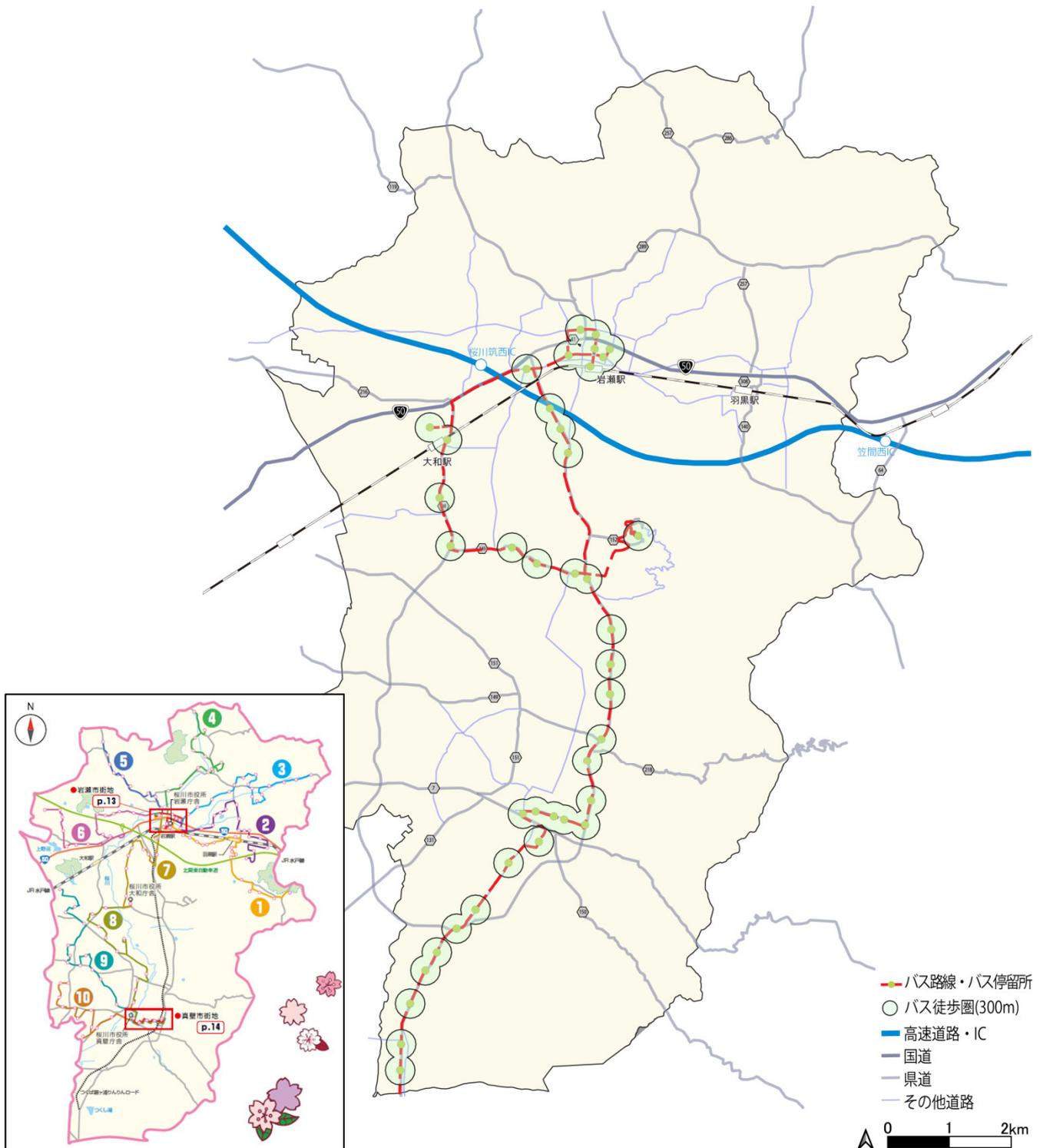
主な道路網は、北関東自動車道及び国道 50 号が市北部を東西に横断しており、主要地方道つくば益子線や主要地方道石岡筑西線、一般県道東山田岩瀬線やその他市道等の道路によって構成されています。



道路状況

公共交通については、鉄道は JR 水戸線が国道 50 号に平行して走り羽黒駅・岩瀬駅・大和駅の3駅が設置されています。

路線バスは桜川市バス「ヤマザクラ GO」が運行しており、運行ルートは主要地方道つくば益子線沿線、主要地方道石岡筑西線沿線等となっています。その他の公共交通空白地域は市内巡回ワゴン「ヤマザクラ GO ミニ」が運行しています。



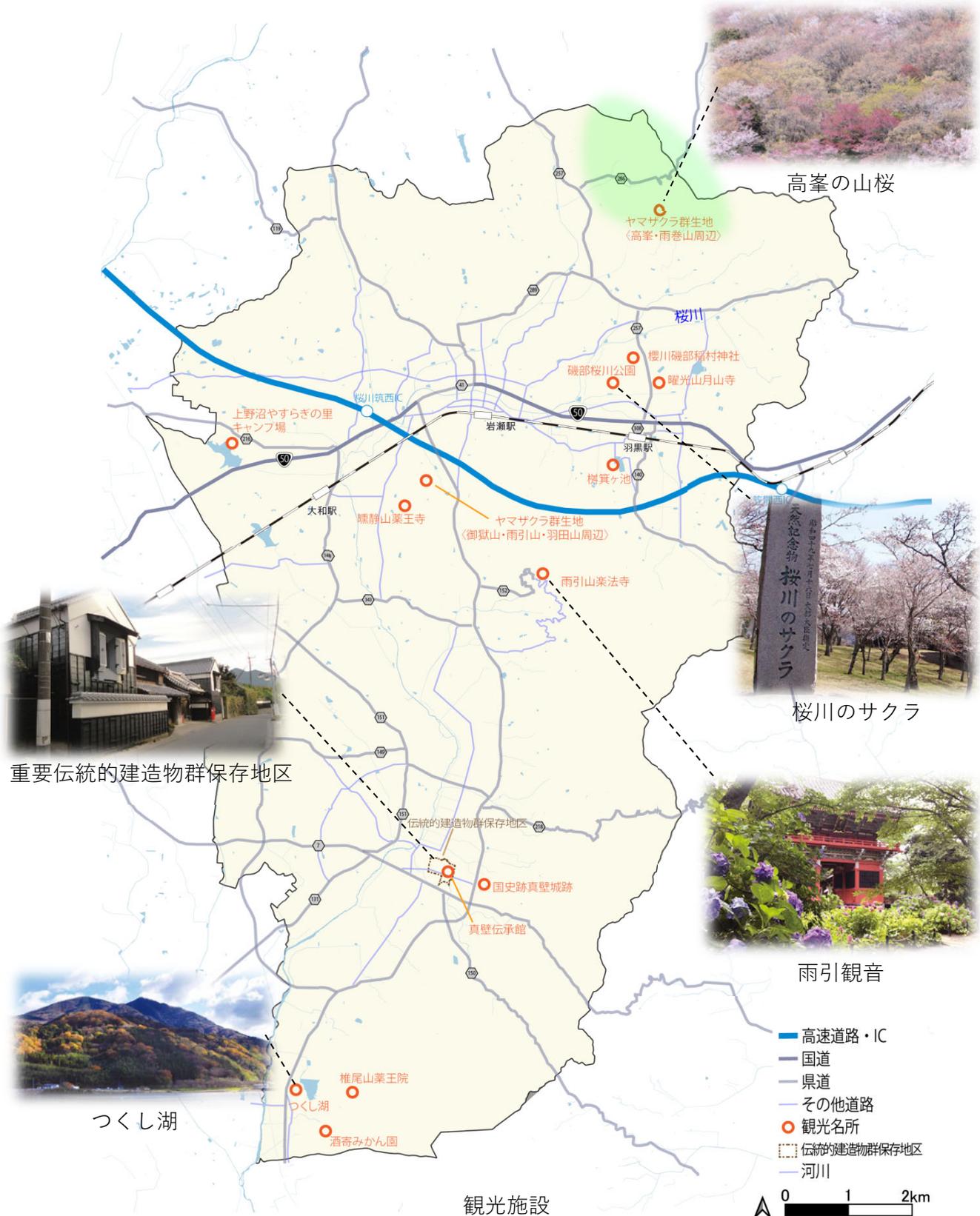
ヤマザクラ GO ミニ
運行ルート

公共交通の状況

(6) 観光

国の名勝「桜川」と天然記念物「桜川のサクラ」や、雨引山薬法寺（雨引観音）、真壁市街地の歴史的な街並み等をはじめとして観光・交流資源に恵まれています。

ヤマザクラや紅葉など四季とともに移ろい、日々変化する里山の風景が特徴的です。





高峯の山桜

高峯はヤマザクラ群生地として有名で、春の開花期には多くの観光客が花見に訪れています。

平沢林道に展望台があり、筑波山や加波山を背景に田園風景や桜の里山を一望することができます。



重要伝統的建造物群保存地区

桜川市真壁町真壁を中心とする地域には、104棟の登録文化財をはじめとする数多くの伝統的な建物が存在します。このうち約17.6haが国の重要伝統的建造物群保存地区になっています（平成22年6月国選定）。



市内の景観（富谷山からの景色）

市内の景観は豊かな田園風景と筑波山などの山々が共存しています。



真壁祇園祭



桜川の桜まつり

市内ではまつり等の催しが古くから行われており、「真壁祇園祭」は400年の歴史を持つお祭りです。現在は、国の無形民俗文化財に選択されています。

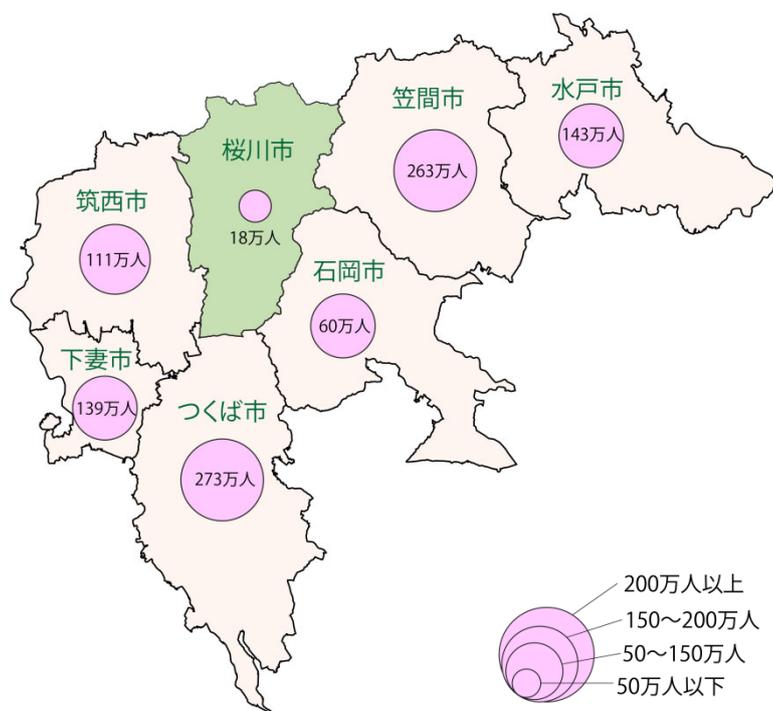
また、桜の咲いている時期に「桜川の桜まつり」と題し、桜の名所である櫻川磯部稲村神社、磯部櫻川公園、高峯のヤマザクラ、雨引観音を中心に桜ガイドを実施しています。

令和2年の観光入込客数をみると、本市は約 18 万人となっています。隣接する、つくば市は約 273 万人、笠間市約 263 万人、筑西市約 111 万人、石岡市約 60 万人となっています。

< 近隣市町村の観光入込客数 >

(単位：人)

市町村名	入込客数(延べ人数)
水戸市	1,426,000
石岡市	599,800
笠間市	2,626,400
つくば市	2,728,700
筑西市	1,114,600
桜川市	180,600
下妻市	1,388,700



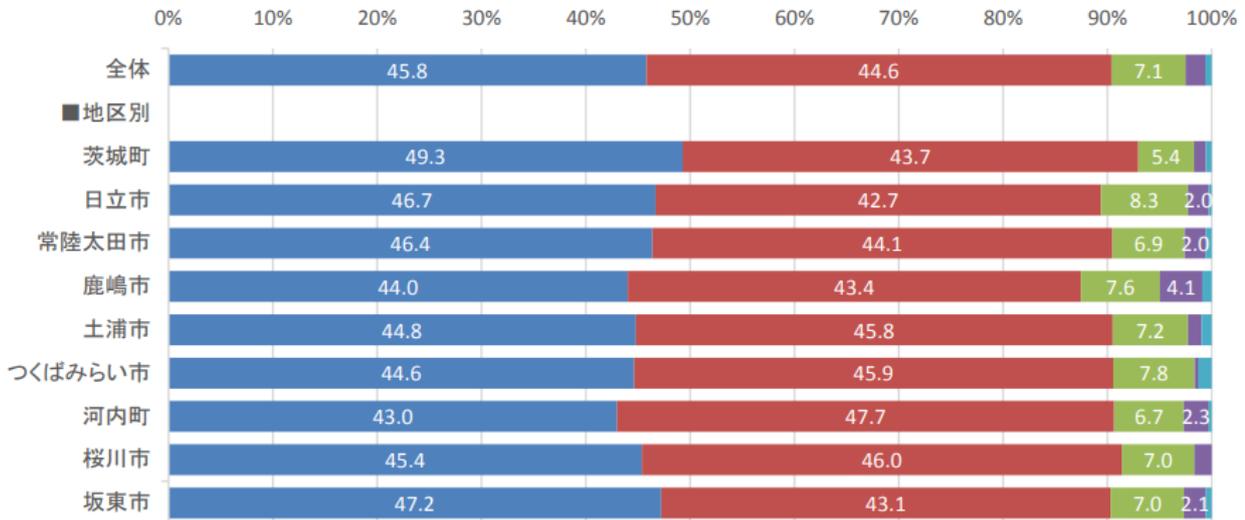
近隣市町村の観光入込客数
(令和2年観光客動態調査報告(茨城県))

(7) 健康

①健康意識

平成 27 年度県民健康実態調査によると、健康への関心は県平均と同様の約 46%であり、他市町と比べても大きく変わりません。

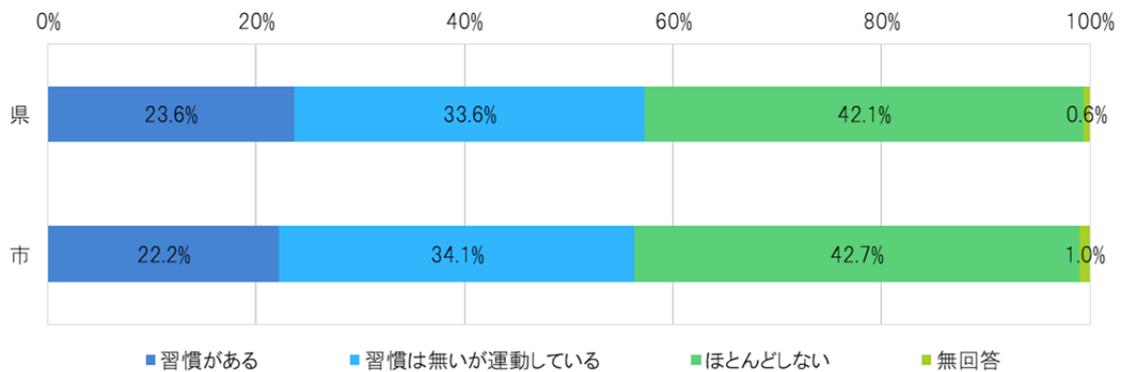
<自分の健康に関心を持っているか>



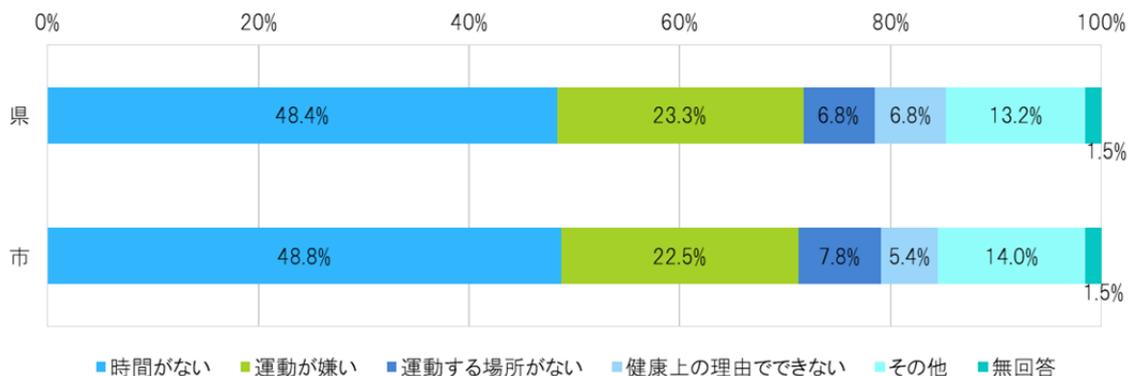
②運動習慣

平成 27 年度県民健康実態調査によると、運動習慣がある割合は県平均より約 1%低く、運動しない理由として、「時間がない」・「運動が嫌い」に続き、「運動する場所がない」割合が約 8%となっています。

<自分の健康に関心を持っているか>



<運動しない理由>

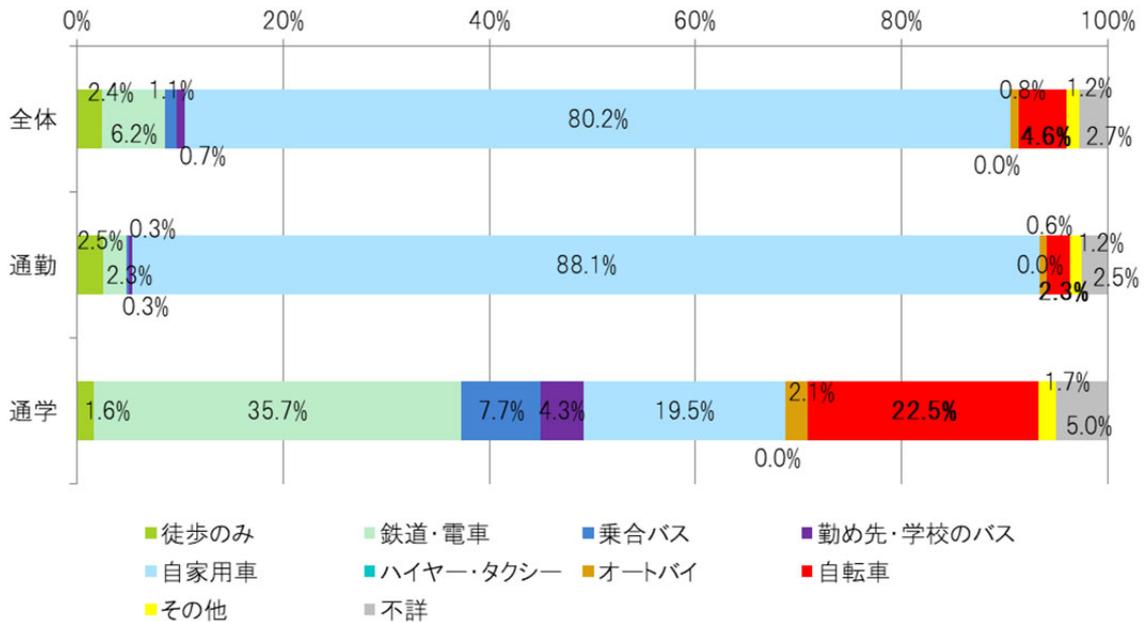


(平成 27 年度県民健康実態調査 (茨城県))

3. 自転車の利用状況

(1) 自転車の交通分担率

令和2年国勢調査における利用交通手段では、本市の自転車交通分担率は4.6%であり、自家用車の交通分担率が80.2%となっています。通勤における自転車の交通分担率は、2.3%と市全体と比べて低く、自家用車への依存が高くなっています。通学における自転車の交通率は、22.5%となっています。



(単位：人)

	徒歩のみ	鉄道・電車	乗合バス	勤め先・学校のバス	自家用車	ハイヤー・タクシー	オートバイ	自転車	その他	不詳	総数
全体	448	1,165	212	139	15,122	6	149	876	230	518	18,865
通勤	413	385	44	46	14,695	6	102	385	193	409	16,678
通学	35	780	168	93	427	0	47	491	37	109	2,187

通勤・通学別の交通分担率

(令和2年国勢調査)

(2) 自転車に関連する施設

① 自転車に関連する施設

岩瀬駅を市内北端として、市内を南北につくば霞ヶ浦りんりんロードが通っており、自転車専用道となっています。また、沿道には休憩所が3箇所設置されています。

岩瀬駅を起終点として、いばらきサイクルトレインが臨時的に運航しており、岩瀬駅は多くのサイクリストの拠点となっています。

つくば霞ヶ浦りんりんロード (<https://www.ringringroad.com/>)

つくば霞ヶ浦りんりんロードとは、旧筑波鉄道の廃線敷と霞ヶ浦を周回する湖岸道路を合わせた全長約180kmのサイクリングコースです。

日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングルートを国内外へPRを図るために、一定の水準を満たすルート対象として「ナショナルサイクルルート」に指定する制度が制度化されました。そして第一弾の指定ルートとして、令和元年11月にナショナルサイクルルートに選ばれました。



いばらきサイクルトレイン (<https://www.jreast.co.jp/mito/ibarakicycletrain/>)

いばらきサイクルトレインとは、サイクリングイベントの開催に合わせて運行し、輪行袋を使用せずに自転車を乗車できる臨時列車です。

JR上野駅から岩瀬駅まで運行しており、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の起点から終点までの区間をカバーしています。



(JR 東日本 HP)

広域レンタサイクル (<https://www.ringringroad.com/>)

つくば霞ヶ浦りんりんロード推進協議会では広域レンタサイクル事業を実施しています。

本市では岩瀬駅の高砂旅館において、自転車の貸出と返却を行っています。広域レンタサイクル全体の利用台数のうち、約1割が本市で貸出・返却されており、土浦市に次いで利用が多くなっています。

施設名	所在地	貸出		返却	
		貸出台数	割合	返却台数	割合
①岩瀬駅前 高砂旅館	桜川市	266	11.3%	197	8.4%
②つくば総合インフォメーションセンター	つくば市	92	3.9%	108	4.6%
③りんりんスクエア土浦	土浦市	323	13.7%	460	19.6%
④土浦まちかど蔵「大徳」	土浦市	106	4.5%	74	3.1%
⑤りんりんポート土浦	土浦市	1,241	52.8%	1191	50.7%
⑥予科練平和記念館	阿見町	2	0.1%	3	0.1%
⑦烹旅館 いづみ荘	石岡市	80	3.4%	57	2.4%
⑧かすみがうら市交流センター	かすみがうら市	60	2.6%	72	3.1%
⑨霞ヶ浦ふれあいランド虹の塔	行方市	56	2.4%	68	2.9%
⑩水郷潮来観光協会(駅案内所)	潮来市	85	3.6%	79	3.4%
⑪鹿島セントラルホテル	神栖市	39	1.7%	41	1.7%
計		2,350	100.0%	2,350	100.0%

※休業期間 8月6日～9月30日

令和3年度広域レンタサイクルの利用状況
(茨城県資料より作成)

②公共施設の駐輪場

市営駐輪場は、岩瀬駅や大和駅、羽黒駅に設置されています。それぞれの駐輪場では150～300台の自転車が収容でき、通学時の中学生や高校生に多く利用されています。

そのほか、桜川市総合運動公園などの公共施設にも駐輪場が設置されています。

岩瀬駅自転車置場
(収容台数 202 台)



大和駅自転車置場
(収容台数 150 台)



羽黒駅自転車置場
(収容台数 260 台)



③ サイクルサポートステーション

茨城県では安全・快適なサイクリングのため、駐輪ラックの設置や工具の貸出等を提供するサイクルサポートステーションを指定しており、本市内ではコンビニや飲食店等 45 店が登録施設となっています。

また、本市においてもりりんロードの利活用の一環として、桜川市サイクルサポートステーションの登録を募集しており、現在、市内6店が登録されています。登録店には、サイクルラックやステッカー空気入れ、自転車用工具を貸出し、観光消費の増加や地域の活性化を図っています。



ステッカーデザイン

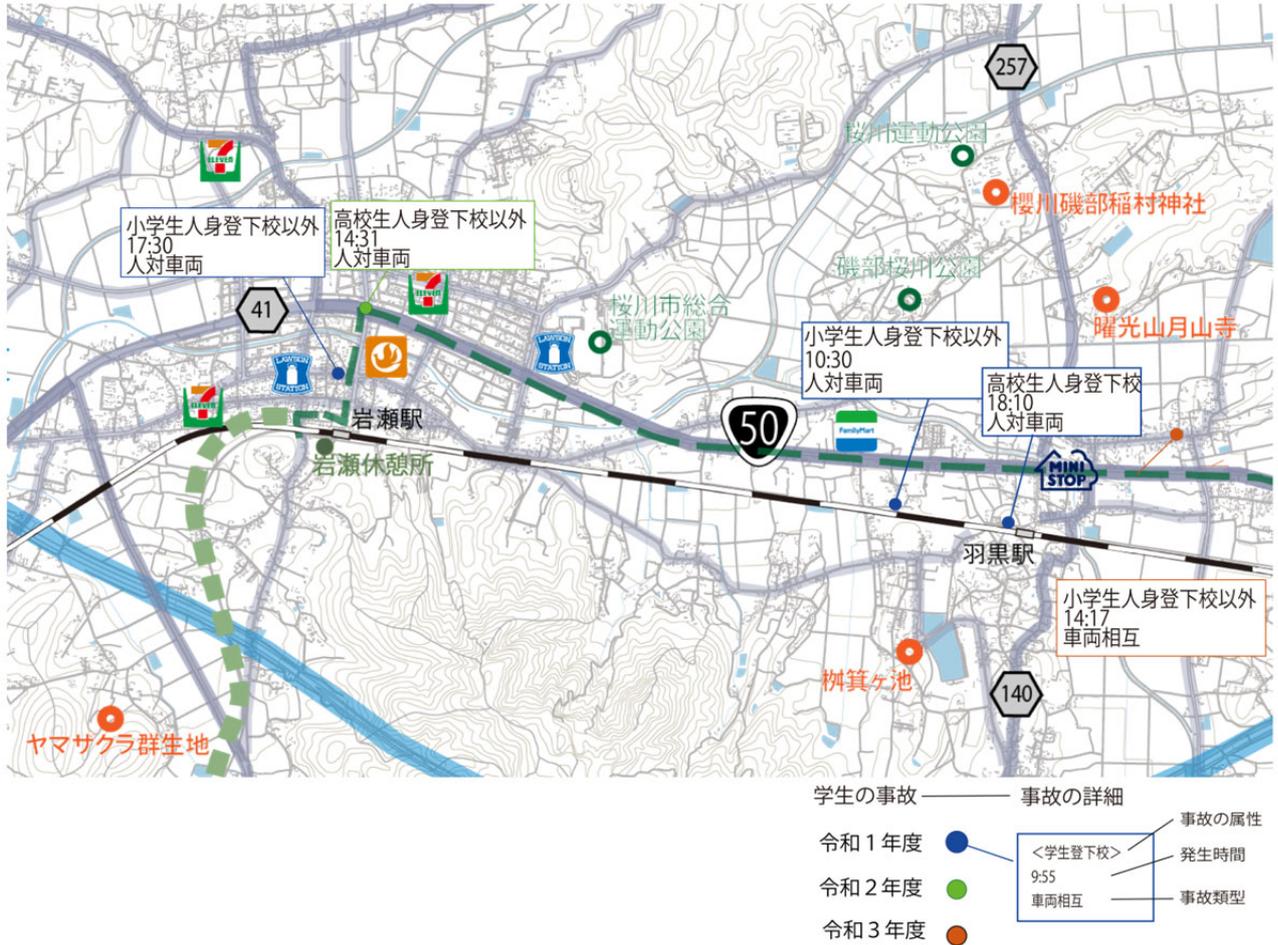
(桜川市 HP)

(3) 交通安全

① 自転車関連事故発生状況等

本市の自転車事故は、過去5年間で24件となっています。

令和1年度以降の学生が関わる事故の分布をみると、岩瀬駅や羽黒駅周辺において小学生・高校生の事故が発生しています。

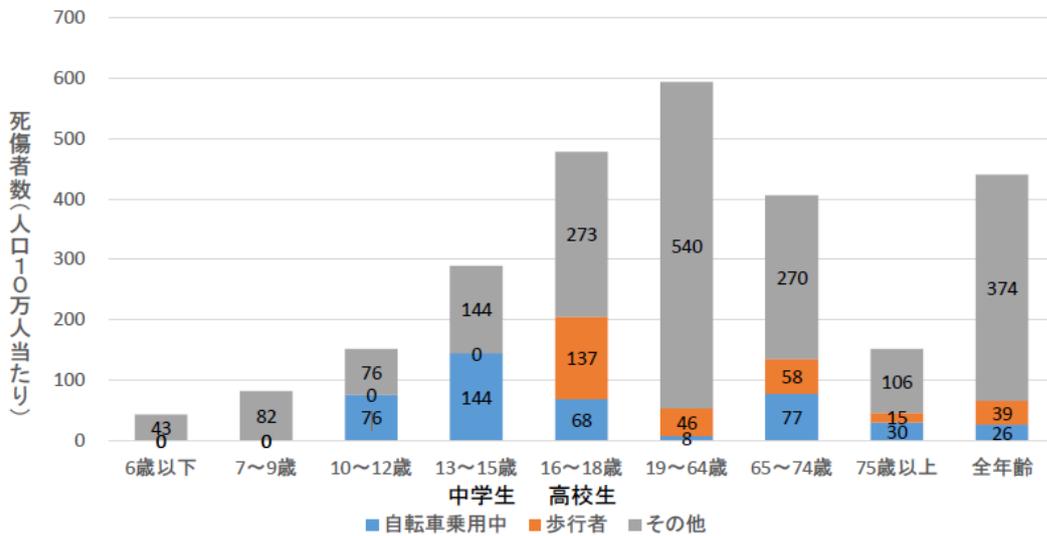


学生が関わる交通事故の分布(岩瀬市街地周辺)

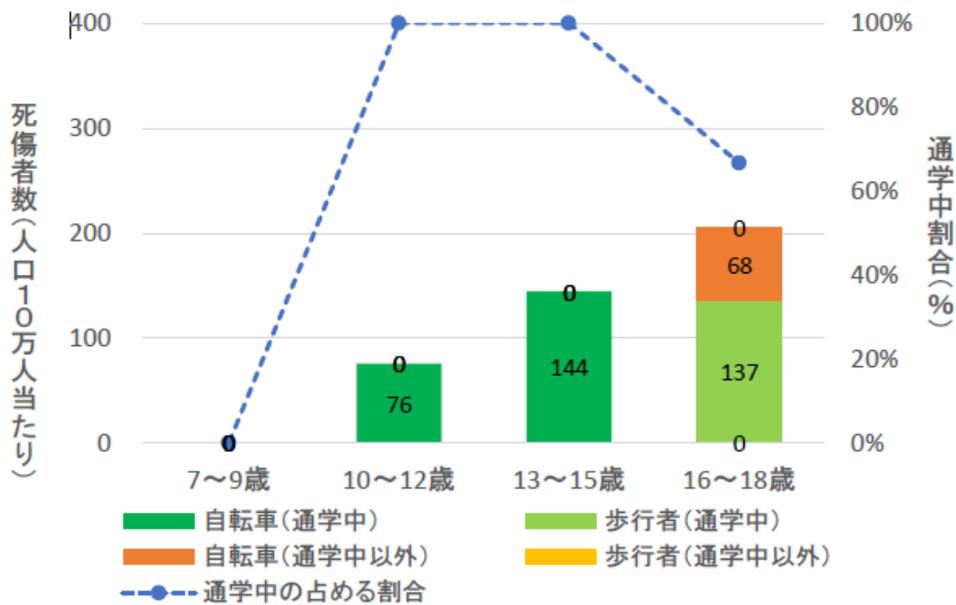
(交通事故発生マップ(茨城県))

(参考) 10万人当たりの事故による死傷者数

人口10万人当たりでみると、10～15歳は、自転車乗用中の事故が死傷者数の半数にのぼっています。また、高校生や65～74歳は、自転車乗用中の事故が70人前後になっています。



桜川市の人口10万人当たり年齢層別・状態別死傷者数
(交通事故総合分析センター)



桜川市の小中高生の人口10万人当たりの通行目的別死傷者数
(交通事故総合分析センター)

<茨城県桜川市の年齢層別死傷者数(H26)>

	6歳以下	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19～64歳	65～74歳	75歳以上	全年齢
自転車	0	0	1	2	1	2	4	2	12
歩行者	0	0	0	0	2	12	3	1	18
その他	1	1	1	2	4	141	14	7	171

<茨城県桜川市の人口(H22)>

	6歳以下	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19～64歳	65～74歳	75歳以上	全年齢
人口	2,352	1,225	1,321	1,385	1,465	26,124	5,178	6,610	45,673

※人口のうち、全年齢には年齢不詳を含む

②自転車の盗難状況と犯罪率

令和3年における本市の自転車盗難は7件であり、前年に比べて2件増加しています。犯罪率順位で見ると、県内では44市町村中のワースト36位であり、犯罪率は低い傾向にあります。

	認知件数	前年同期比		犯罪率	犯罪率順位 (44市町村中)
		増減数	増減率(%)		
桜川市	7	2	40	0.181	36

※1 人口は、「いばらき統計情報ネットワーク【茨城県の人口と世帯（推計）】」を使用

※2 犯罪率は、人口1,000人当たりの認知件数であり、順位はワースト順位

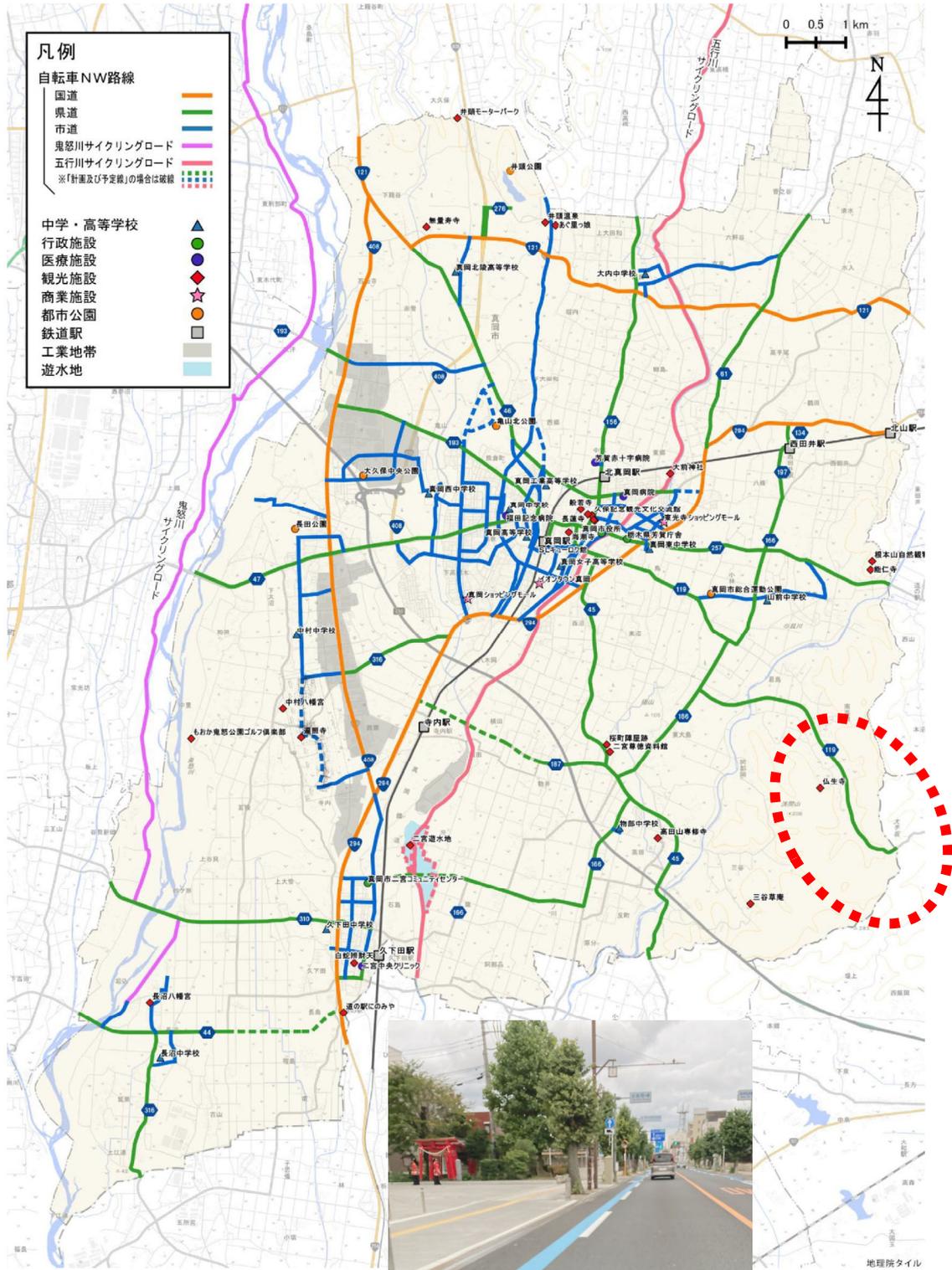
令和3年自転車の盗難状況と犯罪率

(茨城県警察)

(参考) 本市と隣接する市町村の取組状況

● 栃木県真岡市

本市に隣接する栃木県真岡市においても自転車の活用が推進されており、本市から真岡市に至る県道 119 号真岡岩瀬線は、本市との連携路線として自転車ネットワークに位置付けられています。



自転車ネットワーク路線の整備形態（真岡市全域）
（真岡市自転車活用推進計画）

●栃木県益子町

益子町観光協会では、益子駅においてレンタサイクルを行っています。また、サイクリングを楽しむよう、ましこポタリングマップも作成し、SLと合わせたコースなどを紹介しています。



益子町観光協会

●茨城県土浦市

平成28年11月の「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の開通を契機に、「土浦駅東口サイクルステーション」やレンタサイクルのほか、ロッカーやシャワー等が設置されている「プレイアトレ土浦・りんりんスクエア土浦」、市内周遊の拠点施設となる「りんりんポート土浦」が開業するなど、自転車環境の整備が進んでいます。交通安全教室等の市民向けのソフト施策も実施し、市民の自転車利用を促進しています。



プレイアトレ土浦・りんりんスクエア土浦



りんりんポート土浦



(土浦市自転車のまちづくり構想)

●茨城県つくば市

つくば市自転車安全利用促進計画を策定し、環境にやさしく、健康づくりにつながる自転車の安全利用及びつくば市に適した自転車走行環境ネットワークの形成を図っています。取組として、シェアサイクル実証実験事業や自動組立スペースの確保、筑波山口やつくば駅前でのレンタサイクル、また児童等のヘルメット購入補助事業など広く展開しています。



●茨城県笠間市

自転車活用推進計画を策定し、「教育」・「環境整備」・「ツーリズム」の3つの観点から様々な取組を進めています。近年整備された道の駅などでは、シェアサイクルも設置しています。

